

男女共同参画・女性研究者支援に関する調査結果報告

山口大学における仕事とライフケース（子育て・介護）の両立に関する環境整備に対する認知や評価の状況および男女共同参画や女性研究者支援に関する研究者の意識や行動の変化について明らかにし、各種施策の効果や課題解決に向けた今後の取組みを検討するため、2016年7月～8月にかけて、「男女共同参画・女性研究者支援に関するアンケート調査」を実施しました。ご協力をいただきました教職員の皆さん、ありがとうございました。

調査対象者は山口大学の研究者1,017人で、調査方法は平成28年度ダイバーシティ推進FDセミナーでの会場調査法および学内便送付法を用いました。調査の結果、445人（回答率43.8%）からの回答がありました。以下、主な結果を報告します。

取組みの評価度について、平均点は、100点満点中72点～78点に分布しており、全体的に一定の評価が得られていることがわかりました（図1）。なお、評価度について、性別による大きな差異はみられませんでした。

改善度が高い取組みは、「支援制度の冊子」、「男女共同参画推進室の設置」、「女性研究者メンター制度」、「研究補助員制度」でした。これらの取組みは、重要な取組みであると認識される一方、評価度が低い状況にあり、重点的に内容の見直しを図る必要があることが分かりました。

男女共同参画や女性研究者支援の推進については、賛成意向のある研究者は全体の90%以上と非常に高い水準にありました。一方、女性研究者支援室の開設以降、山口大学全体の変化を感じる研究者は20%程度であり、賛成意向が高い割には変化を感じる研究者が少ない状況でした。

男女共同参画や女性研究者支援のための取組みは、研究者から十分認知されているとはいえない状況でした。また、一定の評価が得られているとはいえ、十分評価されているともいえない状況でした。このような状況下において、取組みに対する山口大学全体の意識や環境の変化を感じる研究者が少ないと示すことは、取組みの改善を推進する必要性が高いことを示します。

また、性別でみると、女性教職員の活躍しやすさについては、男性よりも女性のほうがポジティブな変化を感じる人の割合が高いことから、男性研究者が思う以上に、女性研究者にとって効果が表れていることがわかりました（図2）。それ以外の意識や環境の変化については、女性よりも男性のほうが変化を感じる人の割合が高いことから、女性研究者が思う以上に男性研究者が変化を感じていることがわかりました。自由記述では多くの意見が寄せられました。仕事とライフケース（子育て・介護）の両立に関する環境整備の取組みについては、「取組みの継続や推進を求める意見」「キャンパス間の差」「取組みの対象者についての意見」「取組みの内容についての要望」「保育支援の充実を求める意見」「職場内の意識についての意見」「取組みへの疑問」に関する声が多くありました。男女共同参画や女性研究者支援に関する研究者の意識や行動の変化については、「肯定的な意識の変化」に関する声が最も多く、その他には「否定的な意識の変化」「肯定的な行動の変化」「疑問や要望」に関する声もありました。

これらの意見は、山口大学の男女共同参画・女性研究者支援に係る施策に活用していきます。

図1 取組みの評価度

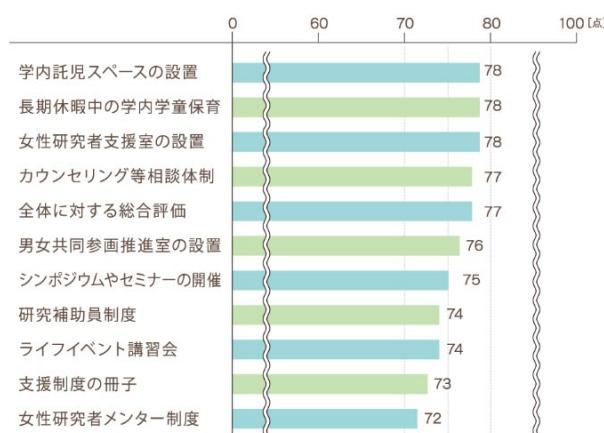


図2 男女別にみた山口大学全体の意識や環境の変化

